

REVO(レボ)ご使用中のゴルフ場様への夏場の管理(散水)に関するアドバイス

・レボは芝生表層の水分を少な目にします。

レボはこれまでの界面活性剤とは全く異なり、土壌粒子の表面に途切れることのない薄い水の膜を作り、土壌中の気相の割合を増やす作用が特長です。

この結果、芝生の表層の水分を少な目にコントロールして、サラッと仕上げることが可能になります。



・夏期高温時の散水間隔に注意

レボを処理すると、散水や降雨の後でも、表面近くの水分は速やかに少なくなります。梅雨の雨が続いた後や、台風などの大雨の後などでも、晴天・高温により乾燥状態が現れる事があります。

芝生の観察を十分行い、散水を行ってください。

根が浅く乾燥しやすい場合には毎日、散水が必要な場合があります。

また、必要に応じてシリンジングを行ってください。

・万が一、乾燥症状が出たら・・・

ホールカッター等で抜き取り乾燥場所(深さ)を確認してください。表層だけが乾燥して、下の方が湿っていれば、一時的に土壌水分が少なくなった事により乾燥症状が発生したので、散水すれば水は土壌中に浸透し、適正な水分に戻り回復します。

しかし、土壌全体が乾燥していた時は、もともと撥水物質が多く、撥水性が高かったり、深い場所に撥水性があったりして、処理層が十分に完成していない事が考えられます。

レボの1000倍液を1ℓ/㎡以上でスポット散布後、さらに十分に散水を行ってください。土壌の深い場所まで一度、十分に水が浸透するのを確認できるまで散水してください。

・散布に関する注意

レボはベント、ティフトンなど洋芝に対する安全性は非常に高い界面活性剤ですが、少水量散布(高濃度)の時は茎葉に付着しやすいため、色落ちした様に見えることがあります。夏季には散布水量を200ml/㎡以上にし、追加の散水を2ℓ/㎡以上行ってください。

また、真夏の日中の気温が30℃を超える時にはレボの散布を控えてください。



学術広報室